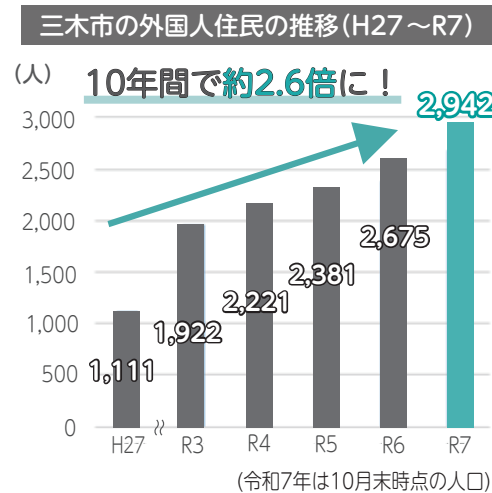




## 違いを認め合い、心でつながる 『外国人の人権』

五百住会長のインタビューにもあったように、近年はさまざまな立場の人が共に暮らす時代となりました。中でも、ここ数年で外国人住民が急速に増えてきています。すべての人が安心して暮らせるまちをめざすため、今回はあらためて『外国人の人権』について考えてみましょう。



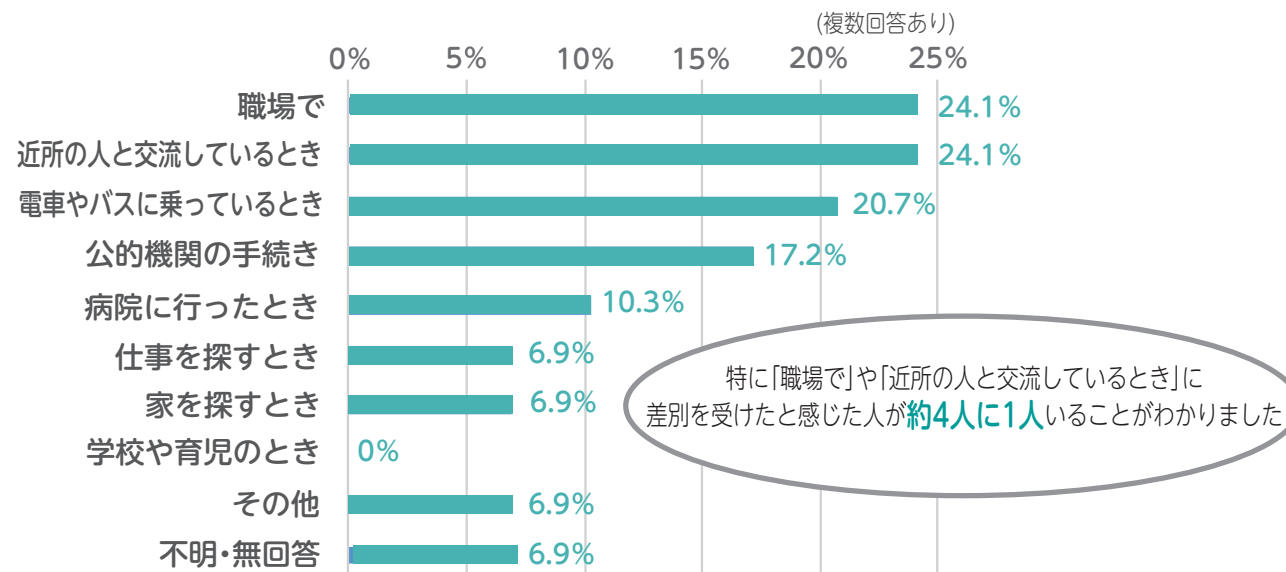
さらに増える外国人住民

外国人住民は、令和7年10月時点で2,900人を上回り、10年前の2.6倍に増えました。市民のおよそ4%を占め、約50カ国の外国人住民が生活しています。平成31年には、国が深刻化する人手不足に対応するため在留資格「特定技能」を創設したこと、製造業や介護、農業など、地域の幅広い分野で活躍しています。家族とともに定住する人も増え、外国人の子どもたちも多くなりました。一方で、急速な増加により、言葉や生活習慣の違いから生じるさまざまな課題が顕在化しており、今後は誰もが安心して暮らせる地域づくりがより一層求められています。

### 実際に聞いてみた

## 外国人住民が「差別」を受けたと感じたとき

私たちと同じ地域で暮らす外国人住民も、日常の中でさまざまな場面に不安や孤立を感じる場合があります。令和4年に実施した「三木市多文化共生のまちづくりに関するアンケート調査」では、外国人住民が実際にどんな場面で差別を受けたと感じたのか、その声を聞きました。



12月4日～10日は人権週間

## みんなで築く、人権尊重のまち三木 ～多様な人が安心して暮らせる社会をめざして～

問 (市)人権推進課 人権施策推進係

### 人権尊重に向けた特徴的な取組

三木市では、平成13年に、県下の市では初となる人権に関する総合的な条例「三木市人権尊重のまちづくり条例」が施行されました。

この条例を基盤とし、市の最上位計画である「三木市総合計画」などと連携させながら、さまざまな施策に人権の視点を取り入れ、行政だけでなく地域や学校、事業者など一体となって人権を大切にする仕組みづくりを進めてきたことが、三木市の大きな特徴です。

また、三木市の施策の取組状況や今後の課題を審議するため、多様な分野の市民団体から選出された委員や市民公募委員で構成された「三木市人権尊重のまちづくり推進審議会」が設けられています。

この審議会には市の幹部も出席しており、その場で直接意見交換すること、速やかに施策に反映できる体制を整えていることが、他市町にはない三木市ならではの強みであると感じています。

「人権週間」を機に、あらためて身近な人権について考えてみませんか。今回は、平成26年から三木市人権尊重のまちづくり推進審議会」の会長を務める五百住さんに、専門家の視点からみた市の人権施策の特徴や、これまで進めてきた取組、今後の課題や方向性などについて聞きました。

令和5年度に三木市が行った「三木市総合計画策定に関する市民アンケート」では、「だれもが平等で差別のないまちづくりに対する満足度」が55.7%であるという調査結果が出ています。

これは全国的に見ても高い数値であり、行政・地域住民・学校・事業者が一体となって密接に連携・調整し合い、一人一人の人権が尊重される明るく住みよい地域社会づくりをめざして取り組んでいる成果であると考えます。

### 今後 人権課題が進む方向性と、求められる人権施策

近年は社会の多様化が進み、三木市でも急速に増えている外国人をはじめ、障がいのある人や性的マイノリティ、高齢者など、さまざまな立場の人が共に暮らす時代です。今後さらに人権尊重のまちづくりを進めていくためには、特に次の点に重点を置き、あらゆる差別や人権侵害をなくそうとする

啓発・教育を展開することが重要です。

- ① 正しく知ることから始める
- ② 日常の言動を見直す
- ③ 差別的な言動に対して声をあげる
- ④ 特に学校における人権教育に力を入れる
- ⑤ ネット上の差別などに注意し、情報リテラシー\*\*の教育に力を注ぐ

※情報を適切に収集・理解し、それらを有効に活用する能力

### インタビュー！



三木市人権尊重のまちづくり推進審議会  
兵庫県人権教育研究協議会  
会長 五百住 満さん

これから、さまざまな人権課題を自分や自分の身近な人の問題と捉え、お互いの違いを受け入れ、相手の人権を尊重し、相手の立場に立つて考えることが、みんなをめざす「人権尊重のまちづくり」には不可欠です。